

使用済紙おむつ排出量推計方法の整理

日衛連は子ども用・大人用に分けて排出量を推計しているが、MOE 報告書では子ども用・大人用に分けて国内消費量を推計した上で、家庭系・事業系別の排出量を推計している。

推計の要素	実施者	子ども用紙おむつ	大人用紙おむつ
人口	日衛連	0~3 歳児の 90% (日衛連調べ)	要支援 1~2、要介護 1~5 の各介護度の認定者数及びおむつ使用率（非開示）からおむつ使用総定数を算出 (日衛連会員企業の大人用おむつの使用実態調査(3 年間))
	MOE	0~2 歳児の全てと 3 歳児の 4 割 (メーカーでの使用実態調査)	介護用と医療用の合計として算出 ・介護用については、要介護度 2 以上人口 (メーカーでの使用実態調査) ・医療用については、病床数×病床利用率×紙おむつ使用割合×紙おむつ交換回数 (病床数と病床利用率は「H27 厚生労働省医療施設調査・病院報告」、紙おむつ使用割合と紙おむつ交換回数は「福岡都市圏紙おむつリサイクルシステム検討委員会報告書(案)」)
使用量(年間)	日衛連	5 枚/日×30g/枚×365 日 (日衛連調べ)	アウター1 枚/日+パッド 4 枚/日(計 292g/日)×365 日 (日衛連調べ)
	MOE	5 枚/日×31.5g/枚×365 日 (メーカーでの使用実態調査)	ケース 1: アウター1 枚/日+パッド 4 枚/日(計 294g/日)×365 日 (枚数はメーカーでの使用実態調査、重量は「H28 経済産業省生産動態統計年報」) ケース 2: アウター1 枚/日+パッド 3.5 枚(計 268g/日)×365 日 (枚数・重量ともに「H28 経産省生産動態統計年報」の大人用紙おむつの出荷枚数の比率)
吸収倍率	日衛連	4 倍 (ガイドライン及び日衛連会員調べ、今後精査予定)	4 倍 (ガイドライン及び日衛連会員調べ、今後精査予定)
	MOE	家庭系: 4 倍 (「福岡都市圏紙おむつリサイクルシステム検討委員会報告書(案)」) 事業系 ・ケース 1: 4 倍 (「福岡都市圏紙おむつリサイクルシステム検討委員会報告書(案)」) ・ケース 2: 保育施設: 3.2 倍、介護施設: 3.5 倍、医療施設: 3.7 倍 (「福岡都市圏紙おむつリサイクルシステム検討委員会報告書(案)」の使用済紙おむつ重量と「H28 経産省生産動態統計年報」の使用前紙おむつ重量より)	

⇒ 枠線で囲っている日衛連の推計方法を採用することとし、幅を持った推計とするため、MOE 推計のケース 2 についても排出量を推計することとした。